より安心・快適な暮らしを支えるサービスの提供

人々の暮らしは常に変化し続けています。長谷工グループは、常に住む人の声を聞き、細心の心遣いを忘れずに、
最新の技術による提案ときめ細かなサービスを提供していくことを目指しています。

コミュニケーションロボットを用いた介護予防体操アプリ開発

多様なライフスタイル　安全・安心

長谷工シニアホールディングスの運営する高齢者住宅では、日常生活動作の自立支援や介護予防を目的とした「ゆうゆう体操」を行ってきました。「ゆうゆう体操」を広く展開するため、介護予防運動指導員や施設スタッフに代わって、コミュニケーションロボット NAO（ナオ）を活用して体操を指導するアプリケーションを、長谷工アネシス及びフューブライト・コミュニケーションズ（株）と連携して開発しました。

この「NAO 版ゆうゆう体操」は、NAO が介護予防運動指導員の代わりになり、体操の仕方や効果を音声と画面の映像を使って説明したり、体操の前に毎日異なる話題を提供する機能を持っています。NAO を活用することで、施設スタッフの負担が軽減され、参加者一人ひとりへの体操補助ができるようになります。また、ご入居者に実施したアンケートでは、体操への参加率が増加し、介護予防運動指導員が体操の模範を行った際と同様に、ロボットの掛け声により正しい姿勢で体を大きく動かすことができたという結果が見られました。

「NAO 版ゆうゆう体操」は、長谷工シニアホールディングス傘下の生活科学運営とセンチュリーライフが運営する全国の老人ホーム 23 施設に導入しており、ご入居者と NAO が一緒に体操する光景が日常的に見られます。

NAO は体操の仕方を説明し、ご入居者に向けて掛け声をかけます

体操をする NAO
※ソフトバンクロボティクスの NAO を活用し、当社が独自に実施しているものです。

住まいと暮らしの相談ごとを解決する「長谷工生活相談カウンター」

多様なライフスタイル　安全・安心　コミュニティ

兵庫県宝塚市の「ラ・ビスタ宝塚」は、1970 年代から 2008 年にかけて長谷工グループが開発した約 45 万㎡・全 15 棟のニュータウンです。

長谷工コミュニティは竣工当初から管理受託しており（1 棟を除く）、居住者が便利で快適なマンションライフを過ごすためのサポートとして「長谷工生活相談カウンター」を設置しています。

同カウンターでは、マンションのインテリアや各種リフォーム、改修、不動産流通（仲介）、介護など、住まいと暮らしのお困りごとやお悩みごとの解決を図ります。

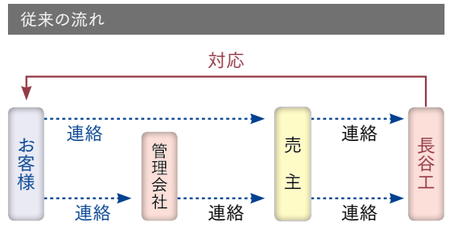
ずっと住まい続けていただくためのアフターサービスの提案

多様なライフスタイル　安全・安心

長谷工コーポレーションは、アフターサービスを重要なマンションの品質と考えてきました。そのため、お客様の声をダイレクトに聞くことで、より正確に状況を把握し、最適な対応をスピーディに行う長谷工プレミアムアフターサービス（PAS）を、2008 年より導入しています。2017年度の対応件数は、東京地区 8,892 件、関西地区 1,485 件、計 10,377 件となりました。

従来は、管理会社を通して連絡が入るという流れが一般的でした。PAS の導入により、作り手である長谷工にダイレクトにお客様の声が伝わることとなり、一級建築士をはじめとするマンションを知り尽くしたスタッフが応対することで、技術者による対応もよりスムーズになります。

PAS はコールセンター機能を担うだけでなく、アフターサービス期間の延長、住まいの整備手帳やメンテナンスキットの配布、定期サービスの強化など、あらゆる角度から住まいを永く使っていただくためのサポートを実施しています。さらに、コールセンターに寄せられる声や点検チームによる定期検査の内容等については、設計・施工、管理・技術管理部門が出席するフィードバック会議で共有し、設計施工中の物件にも反映されます。今後もより多くの物件で採用されることにより、住まう人の安全・安心な暮らしに貢献していきたいと考えています。



財団とともに、住まいの社会課題を明確化し、改善に貢献する

長谷工コーポレーションが設立した（一財）ハウジングアンドコミュニティ財団（理事長：大栗育夫［長谷工コーポレーション 代表取締役会長］）は、これまで地域・コミュニティ分野の NPO・市民活動団体への支援を中心に広く助成事業を行ってきましたが、住まいに関わる問題が社会問題化し、多様化していることから、新たに住環境改善に対する助成の枠を設けました。2017 年度は 5 件を対象に実施、2018 年度以降は年間 10 件の助成を目指しています。
既に 800 万戸を超え、今後も増加が見込まれる空き家対策や、単身高齢者の住居問題、老朽化した集合住宅の建替えといった住宅・マンション業界を取り巻く諸課題の改善に向けて、NPO・市民活動団体や行政と連携します。
また、住まい関連の助成事業の活性化を図るため、研究交流会も年1回のペースで開催。社会における住まいの課題を明確にし、その解決に貢献していくことを目指しています。

大栗理事長による主催者挨拶

一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団

豊かな住環境の創造に貢献することを目的として、1992 年 7 月に長谷工コーポレーションにより財団法人として設立。2011 年 4 月に一般財団法人に移行。
住まい・まちづくり分野の NPO・市民活動団体への活動資金の助成を行うとともに、住まい・まちづくり分野における調査・研究などを行っています。助成対象団体は大学教授など 8 人のメンバーで構成される委員会で決定し、2018 年度の計画分を含め 378 件に及んでいます。

Web サイト
http://www.hc-zaidan.or.jp/